

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
503	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and risk of postmenopausal breast cancer by subtype: the Women's Health Initiative Observational study. 飲酒とサブタイプ別の閉経後乳がんリスク : the Women's Health Initiative Observational study.	
執筆者	
Li CI, Chlebowski RT, Freiberg M, Johnson KC, Kuller L, Lane D, Lessin L, O'Sullivan MJ, Wactawski-Wende J, Yasmeeen S, Prentice R.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Natl Cancer Inst. 2010 Sep 22;102(18):1422-31.PMID: 20733117	
キーワード	
飲酒、乳がん、閉経、疫学	
要 旨	
<p><b>目的：</b> 飲酒は乳がんの確立した危険因子である。この関連はホルモンに大きく影響されると考えられており、アルコールはホルモン感受性の乳がんより強く関連する可能性がある。しかし乳がんのサブタイプ別に飲酒との関連を調べた研究はほとんどない。</p> <p><b>方法：</b> Women's Health Initiative Observational Study 前向きコホートの 87,724 人の女性を 1993-1998 年から観察し、自己申告飲酒量と閉経後乳がんリスクとの関連を分析した。多変量調整 Cox 回帰モデルにてハザード比(HR)と 95%信頼区間(CI)を算出した。</p> <p><b>結果：</b> 2005 年 9 月までの追跡期間中、2,944 人で浸潤性乳がんが診断された。多変量解析において、飲酒は、浸潤性乳がん全体、浸潤性小葉癌、ホルモン受容体陽性癌のリスク上昇との関連を認めた (全て傾向性 <math>P \leq 0.022</math>)。しかし、飲酒はあるタイプの浸潤性乳がんより強い関連を認めた。週 7 杯以上の飲酒者は非飲酒者に比べ、ホルモン受容体陽性の浸潤性小葉癌のリスクを 2 倍近くにさせた (HR 1.82, 95%CI: 1.18, 2.81) が、ホルモン受容体陽性の浸潤性乳管癌のリスク上昇は認めなかった (HR 1.14, 95%CI: 0.87, 1.50)。非飲酒者と現在飲酒者のホルモン受容体陽性の浸潤性小葉癌の発症率はそれぞれ 10000 人年対 5.2 と 8.5、ホルモン受容体陽性の浸潤性乳管癌の発症率はそれぞれ 15.2 と 17.9 であった。</p> <p><b>結論：</b> アルコールはホルモン非感受性の乳がんサブタイプよりホルモン感受性乳がんより強く関連することが示唆され、それぞれのサブタイプにおける発症機序が異なると考えられた。</p>	